



慶應義塾大学ビジネス・スクール

経営分析の基礎 [講義ノート]

矢作 恒雄

I 分析の基礎

10

はじめに

「経営分析 (Business Analysis, Betriebsanalyse)」とは会計情報を用いて企業の経営内容を検討する一連のプロセスを言う。すなわち、企業がその目標をどの程度達成したかを分析、評価し、目標達成プロセスの内在する問題点を指摘し、さらに、その企業の潜在能力を明らかにする作業であるとも言える。もともと経営分析とは銀行家が融資先の返済能力を分析するために開発した手法で、20世紀の初めに考案されたと言われている。従って、かつては経営分析と言えば主に貸借対照表を用いた安全性や流動性の分析を中心であったが、今では経営全般の分析を指し、それに用いる情報も財務諸表に限定しない。財務諸表分析を経営分析と同義に扱う場合もあるが、前者は分析対象の資料を財務諸表に限定しているという意味での狭義の経営分析、あるいは経営分析の方法の一つとも言えよう。15 このノートでは広義の経営分析の基礎を有価証券報告書に記載される企業情報を中心に解説する。20

I - 1 分析対象の情報の入手法

株式を上場している会社は証券取引法により有価証券報告書の提出が義務付けられており、内容は I - 4 節に記載の通りである。上場企業の内容を知ろうとした場合、政府刊行物販売所で購入できる有価証券報告書は極めて信頼性の高い企業情報をコンパクトな報告書の形で提供してくれる。しかし、他にも有益な情報源は数多くあるのでそれらも併せて用いることにより、より豊かな分析が可能となる。有価証券報告書以外の情報源のうち入手しやすいものとして下記のようなものがある：25

1. 新聞、雑誌などの記事
2. 「会社情報」「会社年鑑」「四季報」
3. 民間データバンク情報（日本経済新聞、帝国データバンク等）
4. 企業公報情報（企業が法的に提出を義務付けられている情報）例えば：
 - (1) 商法第 283条(3)により株式会社は貸借対照表を官報や新聞に公告するこ30